

営農だより

金沢営農協議会
JA金沢中央
石川県農業共済組合

代かき、田植え直後の落水は避け、濁り水、肥料などが排水路へ流れ込まないように水管理に注意しましょう。

農業機械による道路の泥汚れ防止にご協力下さい。

4月のポイント～高品質金沢産米づくり運動10の推進技術～

- うす播き（乾粃130g／箱）の励行 ○育苗日数は1か月以内
- 高温登熟に対応した基肥一発施肥への切り替え

田植え前の本田準備

- 土づくり：安定した生産を続けるには、土づくり資材の投入による、地力補強が必要です。秋に土づくり資材を施用できなかったほ場は必ず春に施用しましょう。（営農ごよみP64参照）
- 荒起し：均平は耕起前に高い所から低い所に土を運び、高低差を修正しましょう。田植後の水管理が容易になり、初期生育の促進に繋がります。
- 代かき：代かきは水を少なめにして、稲わらを土の中に埋め込むように作業をすると、田植作業の能率と精度が上がります。
- あぜの漏水防止：除草剤の効果を上げるためにも、モグラ等の穴や崩れがないように畦塗りするか、あぜ波板や畦畔シートなどを使って漏水を防ぎましょう。



基肥施用基準 (kg/10a)

◎基肥一発肥料の場合

品 種	ゆめみづほ	コシヒカリ	コシヒカリ (莖数の少ない圃場)
肥料名	BB早生一発くんNEO (N-P-K:28-7-9)	BBコシー発くんNEO β (N-P-K:25-8-10)	BB有機入りコシー発くん (N-P-K:20-12-11)
	BB早生一発くんDX28 (N-P-K:28-13-9)	BBコシー発くんDX24 (N-P-K:24-14-10)	
	BBスリム早生一発くん (N-P-K:24-10-10)	BB新コシー発くん特号 (N-P-K:20-17-10)	
施用量	40~50	35~40	35~40

- ・基肥一発肥料は側条施肥が前提ですが、全層施肥する場合は、施肥日と田植日を1週間以上あけないで下さい。（施肥日が早すぎると、穂肥分の溶出が早くなり倒伏しやすくなります。）
- ・BB早生一発くんNEO、BBコシー発くんNEO βは、従来より被覆肥料の被膜の崩壊性を高め、ほ場外への被膜流出を軽減できる環境に配慮した一発肥料です。（営農ごよみP21～）

◎分施肥系の場合

品 種	ゆめみづほ	
肥料名	BB有機入り820 (みさと) (N-P-K:8-12-10)	BBいしかわ有機入056号 (N-P-K:10-25-16)
施用量	45~50	35~40
品 種	コシヒカリ	
肥料名	BB有機入り820 (みさと) (N-P-K:8-12-10)	BBいしかわ有機入056号 (N-P-K:10-25-16)
施用量	40	30

- ・毎年、倒伏する圃場や出来すぎになる圃場は、施用量を2~3割減らす。
- ・転作跡田や復田する圃場では、倒伏に強い品種（ゆめみづほなど）を作付けし、施用量は2~3割程度減らす。

JA金沢中央のホームページでも営農だよりを掲載しております。「JA金沢中央」で検索して下さい。

◇裏もあります◇

育苗管理のポイント

良い苗は良質米への第一歩。水と温度管理が決め手です。

苗の活着を良くするため、播種から田植えは1か月以内!!

	緑化期 3～5日間	硬化初期・中期 9～12日間	硬化後期 6日間
温度管理	昼間20～25℃ 夜間15～20℃ 温度計は苗の高さに合わせる	昼間15～20℃ 夜間10～15℃ 日中は換気 	外気にならす
水管理	灌水は控えめに 灌水は床土が乾かない限り行わない。	1日1～2回、たっぷり灌水する 灌水は夕方以降は行わない。	
注意事項	1日目 1 灌水は覆土の持ち上がりがある場合のみ軽く行う。 2 種籾の見えるところは軽く覆土する。 3 出芽直後の白い芽は、直射日光に当たると白化現象を起こすので、直ちにラブリットシートや寒冷紗で被覆する。 2日目～ 1 晴れた日は、高温障害(ヤケ)にならないように日中ビニールをすかして換気を行う。 シルバーポリトウ使用またはハウスのビニールが新品の時は要注意 緑化終了 1 緑化終了の目安は、葉が緑色になり、苗の長さが3cm程度になった時点とする。 また、ゆめみづほは苗丈が伸びにくいいため、緑化期の被覆期間を他品種より2～3日長くする(緑化期終了目安: 苗丈4～5cm)。	初中期 (本葉1.0～2.0葉期) 1 徒長防止のため、日中は高温に注意し、換気につとめる。 2 夜間の温度が10℃以下になる場合は、被覆し保温する。 3 土の乾き具合をみて、午前中に灌水する。 4 雨天時の灌水は控える。 後期 (本葉2.0葉期以降) 1 昼夜の温度差が大きいとムレ苗が発生しやすくなるため、日中の高温に注意し換気する。 2 水は1日に1～2回たっぷりかけ、夕方以降はやらない。 3 田植え5日前から、夜間もビニールを開け外気に慣らし硬い苗とする。 4 苗の葉色低下が著しい場合は、田植え3～4日前に弁当肥を与える。 ※弁当肥の施用方法 ・液肥10号200倍液(水10ℓに50ml)または硫安100倍液(水10ℓに100g)を1箱当たり500mlかけた後、葉ヤケ防止のため軽く灌水する。	

【苗の障害と対策】

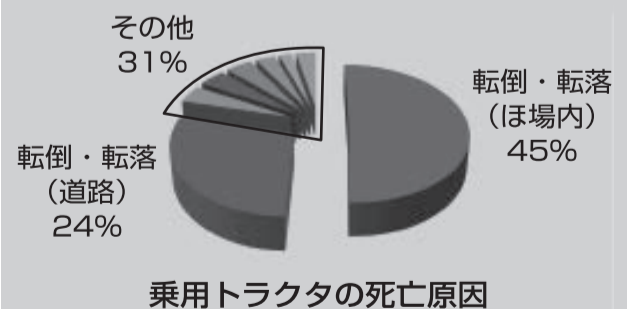
病害名	使用時期	薬剤名	使用量	備考
苗立枯病(カビ)	は種時から緑化期(但し、は種14日後まで)	ダコレート水和剤	500倍液 500ml/箱	・育苗初期によく見られ、高温・過湿条件で発生 ・白カビ、青カビ発生時 ・ハウス内での使用は1回のみ
	は種時又は発芽後	タチガレエースM液剤	500倍液 500ml/箱	・高温条件で発生 ・赤カビ発生時 ・ムレ苗発生防止にも効果あり ・使用回数は1回のみ
ムレ苗	硬化期(1.5～2.0葉期頃に出やすい)	・pH5.0前後の通気性の良い床土を使用する ・低温時は保温資材をかける ・夜間冷えて、翌日晴天の日は温度差が大きくなるので、早めにビニールを開けるようにする		・葉身が針状に巻き、しだいに黄褐色に変わる ・夜間8℃以下の低温と日中の高温により地上部と地下部のバランスがとれなくなり発生する

農作業安全(乗用トラクタによる事故に注意)

農作業に伴う死亡事故は、機械による作業中の事故が多く、また、4～5月の発生が多いです。乗用トラクタ等を使用する際には以下の点に注意しましょう。

- 交通量の少ない一般道・農道を選んで通行する。急勾配な道は避け、道路幅や路肩もチェックする。
- 安全キャブ・フレームのあるトラクタを使用し、シートベルトとヘルメットの着用を徹底する。
- 作業終了後、ほ場を出る前にブレーキの連結ロックをする。
- 反射板を作業機や車幅がわかる位置に貼付する。
- 地震により地盤が軟弱化しているところでは、作業に十分注意してください。

乗用トラクタによる事故の実態



JA金沢中央公式Instagramでも営農情報を発信しています。フォローをお願いします!!

